

# 大学生の一人暮らしに関する認知尺度の作成

○加藤杏<sup>1</sup>・井上果子<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>横浜国立大学大学院教育学研究科・<sup>2</sup>横浜国立大学)

キーワード：一人暮らし・青年期・自立

University students' concerns of living on one's own

Ann KATO<sup>1</sup> & Kako INOUE<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Graduate School of Education, Yokohama National University, <sup>2</sup>Yokohama National University)

Key Words: Living alone, Adolescence, Independence

## 目的

大学進学に伴い、親元を離れ一人で暮らす青年は物理的な自立をする。その際、家事を自身で行う必要に迫られるため、生活面では自立をするが、必ずしも経済的自立・情緒的自立はしていない(斎藤, 1996)。大学生が一人で暮らす過程で抱く考えや感情の違いによって、大学生の自立意識は異なる。本研究では、大学生が一人暮らし体験を通して抱く「一人暮らしに関する認知」を明らかにする尺度を作成し、その認知の性差を明らかにすることを目的とする。

## 方法

1.調査対象者および調査時期：首都圏国立大学2校に通う一人暮らしをしている大学生・大学院生172名(男性110名、女性62名)を対象に、2016年7月から10月に行った。  
2.調査方法：個別自記入式の質問紙調査を集合調査形式で実施した。実施時間は約20分であった。  
3.質問紙の構成：①フェイスシート、②一人暮らしに関する質問、③一人暮らしに関する認知尺度：一人暮らしに関する認知を測定するために、感情的側面、物理的側面から、大学院生1名と心理学を専攻する大学生1名とKJ法を援用して検討を重ね、独自に作成をした77項目について5件法で実施した。④アイデンティティ尺度(下山, 1992)。

## 結果

1.一人暮らしに関する認知尺度の因子分析結果：全77項目に対して、主因子法Promax回転による探索的因子分析を行った。スクリープロットと因子解釈可能性より、4因子構造が妥当であると判断し、繰り返し因子分析を行った。その結果、全項目中30項目が採用された(表1)。  
2.一人暮らしに関する認知尺度の性差の検討：一人暮らしに関する認知尺度の下位因子について性差の検討を行った。その結果「干渉からの解放」「家事の煩わしさ」において男性の方が女性よりも有意に高かった。「独居への不安」においては、女性の方が男性よりも有意に高かった(表2)。

## 考察

一人暮らしに関する認知は「干渉からの解放」「家事の煩わしさ」「独居への不安」「親への恩義」の4因子が抽出された。一人暮らしを肯定的に捉えるだけでなく、一人で暮らすことへの不安感の存在が示された。  
性差に関しては「干渉からの解放」「家事の煩わしさ」において、男性の方が強く認知していた。内海(2013)は、自律への希求の高い男子は、親の心理的な介入が多いと認識していたことを明らかにしている。男性の方が親の干渉をより意識しているため、一人暮らしによる親からの「干渉からの解放」を強く感じると考えられる。また、家事は女性が行うものだという従来の価値観が、男性の「家事の煩わしさ」の認知を高めていると示唆される。「独居への不安」は、男性よりも女性の方が強く認知していた。警視庁が発表した平成27年度の犯罪統計によると、わいせつなどを含む風俗犯の認知件数の被害者は9割以上が女性である。犯罪被害に狙われやすい女

性は、一人で暮らすことへの不安や恐怖を感じやすいと考えられる。

表1 一人暮らしに対する認知尺度の因子分析

項目内容	I	II	III	IV	平均値
<b>干渉からの解放 (α=.88)</b>					
37.これで、自由に暮らせると感じた	.743	-.137	-.019	.016	3.57
36.家族の機嫌を気にしなくてよい	.698	-.084	.133	.040	3.78
42.自分の行動に家族から干渉されなくて、すがすがしい	.697	-.029	-.175	.010	3.81
12.家族に気を遣わなくていいので、気楽だ	.675	-.017	.007	-.001	3.85
45.親からの干渉がなくなって嬉しい	.667	-.038	-.128	-.132	3.55
55.親元から離れて、すがすがしい	.654	.083	-.126	-.204	3.18
8.家族に予定を合わせなくてもよい	.626	-.106	.238	-.077	3.59
40.自分の生活を、自分でコントロールできることが嬉しい	.597	-.147	.025	.034	3.85
39.家族のことを気にせず、勝手に予定を組むことができる	.559	-.011	-.003	.264	4.17
34.家族に対して、秘密をつくることができる	.553	.182	.116	-.067	3.45
74.家の中でのプライバシーが保たれる	.512	.087	-.076	.193	4.30
53.予定や所在地を、親に逐一報告しなくてもよいので楽だ	.503	.195	-.049	.016	3.68
<b>家事の煩わしさ (α=.87)</b>					
54.家事をしなければならぬので、面倒くさい	.072	.858	-.013	-.030	3.93
69.生活のことを自分でやらなきゃいけないのは面倒だ	.006	.819	-.033	.021	3.76
32.食事をつくってくれる人が欲しい	-.008	.702	-.008	-.182	4.00
13.1人で家事をしなければならぬと思うと、憂鬱だ	-.010	.701	.128	-.068	3.31
70.自分で料理をするので、栄養バランスが悪くなる	-.116	.649	-.107	.064	3.93
49.自分1人では、家事をうまくできないと感じた	-.075	.550	.037	.125	3.06
58.疲れていても、自分で家事をしなければならぬのが苦痛だ	.196	.545	.145	.194	4.01
41.自分の生活管理では、健康が保たれないと感じる	-.182	.522	-.119	.041	3.81
<b>独居への不安 (α=.87)</b>					
7.家に1人であることが、不安だ	-.037	.049	.831	-.080	2.34
24.家の中の静けさに耐えられない	.067	.035	.819	-.042	1.94
28.家で、1人で過ごすことは耐えられない	-.002	.051	.767	-.032	1.86
23.家の中の些細な物音が、とても怖く感じた	.138	-.050	.664	.026	2.28
9.家の中に誰もいないのは、寂しい	-.127	.017	.640	.045	3.59
47.家の中におぼけがでるのではないかと怖かった	.028	-.069	.616	-.058	1.86
10.親からの連絡が恋しい	-.085	-.081	.566	.179	2.18
<b>親への恩義 (α=.62)</b>					
72.自分の生活に多くのお金がかかっていることを、親に申し訳なく思う	-.095	-.123	-.015	.674	4.23
56.自分の生活に関して、自分でやらなきゃいけないという責任を感じた	.124	.126	-.031	.607	4.12
51.親がやってくれていた家事や世話に、ありがたみを感じた	.034	.131	.018	.530	4.54

表2 男女別の「1人暮らし認知」下位因子と平均値

	性別	N	平均値	SD	t値(df)
干渉からの解放	男性	105	3.84	0.70	3.22 **
	女性	60	3.47	0.73	(163)
家事の煩わしさ	男性	105	3.85	0.77	2.27 *
	女性	60	3.52	0.95	(103)
独居への不安	男性	105	2.02	0.78	-3.52 **
	女性	60	2.50	0.94	(160)
親への恩義	男性	105	4.22	0.71	-1.92
	女性	60	4.43	0.62	(160)

注：\* $p < .05$ 、\*\* $p < .01$  分散が異なる場合にはWelchの検定を行った。

## 引用文献

斎藤誠一(1996). 青年期の人間関係 培風館  
警視庁(2016). 平成27年度犯罪統計  
<https://www.npa.go.jp/toukei/soubunkan/h27/h27hanzaitoukei.htm> 2017年1月6日閲覧